

WHO 世界自殺レポート会議及び関連行事 開催次第

1. 趣旨

わが国は 1998 年に自殺死亡者数が 24,391 人から 32,863 人に急増して以来、はじめは厚生労働省中心に、次に政府全体として、さらには自殺対策基本法をもとに社会全体で自殺対策に取り組んできた。さまざまな取り組みの進む中で、自殺死亡者数は徐々に減少し、2012 年には 15 年ぶりに 3 万人を下回った。しかしながら、若年者の自殺死亡率が高くなるなどの自殺の実態が変化していることから、国際的な自殺対策の動向等にも留意しつつ、地域レベルの実践的な取組とその評価を地域に普及していくことが望まれている。

さて、WHO(世界保健機関)は、自殺予防は保健医療だけでなく、それ以外の介入も必要とすることは明らかであるとしており、科学的根拠を踏まえた、保健医療とそれ以外を含む、革新的で包括的な協働アプローチの必要性を指摘している。そして、2013 年 5 月の第 66 回 WHO 総会においては、「精神保健行動計画 2013-2020」(Comprehensive mental health action plan 2013-2020)が承認された。その目標として、2020 年までに世界の自殺死亡率を 10%減少させることを挙げ、この目標に向けて、保健/精神保健とそれ以外の協働による効果的な活動が必要と述べている。また、2014 年 9 月の世界自殺予防デーに、はじめての世界自殺レポート(World Suicide Report)を刊行することを決め、12 月 16-17 日には、日本において、世界各国から 40 名以上の専門家の参加する世界自殺レポート会議を開催することとなった。

わが国の自殺対策をさらに発展させる契機とするとともに、世界の自殺対策の発展にも寄与することを目的として、この会議の日本開催を支援し、関連行事を併せて実施するものである。

2. 主催等

【主催】(独)国立精神・神経医療研究センター(NCNP)、WHO、WHO 西太平洋事務局

【共催】日本うつ病学会、日本公衆衛生協会、日本自殺予防学会、日本精神神経学会

【後援】内閣府、厚生労働省、全国精神保健福祉センター長会

3. 日程

- 2013 年 12 月 16 日(月) 9:00-17:30 世界自殺レポート会議
18:00-20:00 世界各国自殺対策の専門家との交流会(会費制)
- 2013 年 12 月 17 日(火) 9:00-17:00 世界自殺レポート会議
- 2013 年 12 月 18 日(水) 9:30-12:30 関連行事①「メディアカンファレンス」
14:00-17:00 関連行事②「シンポジウム」
※16 日交流会、18 日関連行事のみ公開

4. 会場

秋葉原 UDX GALLERY(東京都千代田区外神田 4-14-1, JR 秋葉原駅電気街口より徒歩 2 分)

5. 内容

1) 世界自殺レポート会議

【目的】自殺は公衆衛生上の重要な課題であるという認識の向上を図り、自殺予防に関する科学的根拠に基づいた提案を行い、効果的な取り組みを奨励することを目的とした世界自殺レポートの内容の検討を行う。

2) 関連行事①メディアカンファレンス『自殺予防における、メディアと自殺予防専門家のパートナーシップ』

【目的】自殺予防における、メディアと自殺予防専門家のパートナーシップを強化し、日本および西太平洋の国々における包括的な自殺予防戦略の発展に役立てる。

3) 関連行事②シンポジウム『日本の自殺予防総合対策と世界への貢献』

【目的】自殺対策基本法をもとに総合対策として発展してきた日本の自殺対策の国際的意義を明らかにする。

世界自殺レポート会議 1 日目 プログラム(主催・共催団体のみ)	
9:00-9:30	趣旨説明 自殺予防総合対策センター長 竹島 正 WHO, Dr Shekhar Saxena
9:30-10:00	これまでの活動 WHO, Dr Shekhar Saxena, Dr Alexandra Fleischmann
10:00-10:30	キーメッセージ
10:30-11:00	休憩
11:00-12:30	本会議: 4 テーマの概略や主題について
12:30-14:00	休憩
14:00-16:00	グループワーク
16:00-16:30	休憩
16:30-17:30	本会議: グループワークの報告

世界自殺レポート会議 2 日目 プログラム(主催・共催団体のみ)	
9:00-9:30	グループワークの検討事項について
9:30-11:00	グループワーク
11:00-11:30	休憩
11:30-12:30	本会議: グループワークの報告
12:30-14:00	休憩
14:00-15:00	レポートの構成について
15:00-15:30	今後のスケジュール, 計画について
15:30-16:00	休憩
16:00-17:00	世界自殺レポートの普及について WHO, Dr Alexandra Fleischmann
17:00	閉会 WHO, Dr Shekhar Saxena

関連行事①② 開会(公開・日英同時通訳有)

9:30-9:50 主催者挨拶 (独)国立精神・神経医療研究センター 総長 樋口輝彦
来賓挨拶 内閣府官房審議官 共生社会政策担当 杵淵智行
共催団体挨拶 日本公衆衛生協会理事長 篠崎英夫
日本自殺予防学会理事長 齋藤友紀雄
総合司会 (独)国立精神・神経医療研究センター企画医療研究課長 林田浩一

関連行事①メディアカンファレンス プログラム(公開・日英同時通訳有)

9:50-10:30 講演Ⅰ 『WPRO における自殺予防とメディアとのパートナーシップの重要性』
Dr Xiangdong Wang, WHO 西太平洋地域事務局 精神保健地域アドバイザー
講演Ⅱ 『自殺予防とメディア』
Dr Jane Pirkis, メルボルン大学 公衆衛生学・国際保健学部 保健政策・
プログラム・経済センター局長
座長:(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所長 福田祐典

10:30-11:30 報告Ⅰ 『有名人の自殺報道の実状とそれに関する議論』
・Dr Jong-Ik Park, 韓国自殺予防センター長
・Dr Lakshmi Vijayakumar, Adyar 病院ボランティア医療サービス精神科部長、
チェンナイ市自殺予防センターSNEHA 創設者
・筑波大学教授 高橋祥友
報告Ⅱ 『自殺予防とメディアとの連携』
・和光大学専任講師 末木新
・自殺予防総合対策センター自殺実態分析室研究員 山内貴史
座長:筑波大学教授 高橋祥友,
共同通信社編集局生活報道部次長 川井猛

11:30-11:40 休憩

11:40-12:30 ディスカッション『自殺予防における、メディアと自殺予防専門家のパートナーシップ』
指定発言:朝日新聞大阪本社科学医療部次長 林 敦彦,
特定非営利活動法人自殺対策支援センターライフリンク代表 清水康之
まとめ:Dr Xiangdong Wang, WHO 西太平洋地域事務局 精神保健地域アドバイザー
座長:筑波大学教授 高橋祥友,
共同通信社編集局生活報道部次長 川井猛

関連行事②シンポジウム プログラム(公開・日英同時通訳有)

14:00-14:20 講演 『WHO の包括的な精神保健行動計画 2013-2020 と自殺予防』
Dr Shekhar Saxena, 世界保健機関(WHO)精神保健・薬物依存部部長
座長:(独)国立精神・神経医療研究センター 総長 樋口輝彦

14:20-16:50 シンポジウム 『日本の自殺予防総合対策と世界への貢献』

- ・「日本の包括的な自殺対策と国際的意義」
自殺予防総合対策センター長 竹島正
- ・「わが国の自殺予防対策の評価と課題」
神戸学院大学准教授 南島和久
- ・「ヨーロッパにおける自殺予防プログラムー日本への示唆」
Dr Ella Arensman, 国際自殺予防学会 (IASP) 会長
- ・「オーストラリアの自殺予防対策ー日本への示唆」
Dr Diego De Leo, オーストラリア自殺調査・予防研究所 (AISRAP) 所長
指定発言: ・Dr Alan Berman, 米国自殺学会 常任理事
・Dr Michael Phillips, 上海精神保健センター 部長
・横浜市立大学教授 河西千秋
座長: Dr Shekhar Saxena, 世界保健機関 (WHO) 精神保健・薬物依存部部長
(独) 国立精神・神経医療研究センター 総長 樋口輝彦

関連行事①② 閉会(公開・日英同時通訳有)

16:50-17:00 (独) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所長 福田祐典